

入稿の際の留意点

1. ファイルについて

- (1) 文字がバケるので、機種依存文字を使用しないでください。Illustrator にてデータ入稿する際は、写真など貼付ファイル名にも機種依存文字を使用しないでください。

【例】 機種依存文字の例です

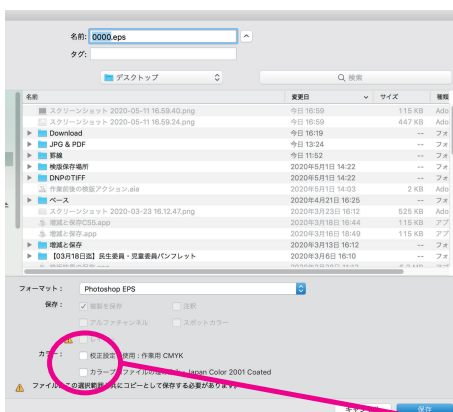
TEL ㊦ ㊧ ㊨ ㊩ (株) ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ mm cm km mg kg cc ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ I II III IV V VI VII

- (2) 拡張子は必ずつけてください。
- (3) FTP などオンラインで入稿される場合は、データを一つのフォルダにまとめていただき ZIP 形式などに圧縮してアップロードください。また、ファイル名は半角英数で設定してください。
- (3) Illustrator にてデータ入稿する際は、Illustrator と貼付写真は同一のフォルダに入れてください。Illustrator を開いてリンクが外れている場合は修正をお願いすることがあります。

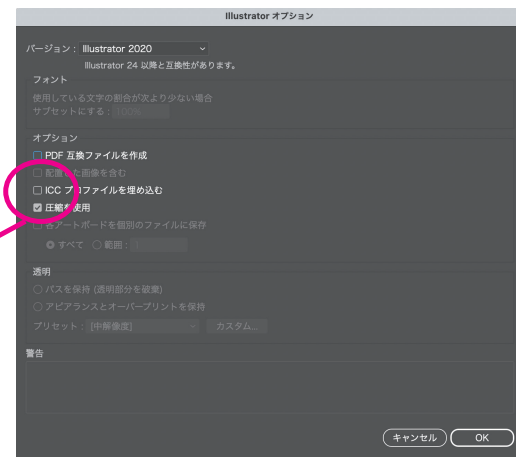
2. カラーモードについて

- (1) CMYK、グレースケール、モノクロ 2 階調、いずれかを使用してください。
- (2) 入稿いただいたファイルに RGB 形式のものが含まれていた場合は、弊社にて自動的に CMYK に変換いたします。RGB から CMYK への変換は、機器が自動的に処理いたしますので、意図した色と仕上がりが異なる場合がございますが、ご了承ください。(CMYK、グレースケール、モノクロ 2 階調以外のデータは RGB と同様に自動的に CMYK に変換されます)
- (3) オーバープリントについて。
データ上に設定されているオーバープリントの情報はすべて破棄されます。オーバープリント処理をご希望の場合は、事前に弊社担当までご連絡ください。
※ 事前にご連絡が無い場合は、全てオーバープリント無しでの処理となります。
※ 事前のご連絡では、下記 2 種類の設定からお選びいただけます。
① データのオーバープリント設定（白以外）を反映させる（白のオーバープリント設定は反映されません）
② K（スミ・黒）100% にのみオーバープリント処理を行う
- (4) プロファイルの埋め込みは行わないでください。（貼付された画像も含みます）
プロファイルが埋め込まれていた場合、機器が自動的に処理を行います。意図した色と仕上がりが異なる場合がございますが、ご了承ください。

【例】 Photoshop での eps 保存時の例



Illustrator 保存時の例



チェックを外して保存をお願いいたします

(5) インキの総使用量（TAC 値）が 320% 未満になるようにしてください。

インキ総使用量とは単位面積あたりのインキ使用量のことで最大は C100%・M100%・Y100%・K100% の 400% です。

【例】 XXXXXXXXXX C80・M100・Y100・K45 (80+100+100+45=325 ← NG)
例えば、配色を少し変えて→ C80・M100・Y100・K39、合計 319 にする

Acrobat では、PDF のインキ総使用量の確認ができます

- メニューから
「表示」→「ツール」→「印刷工程」→「出力プレビュー」(ver.x 以降)
- メニューから
「アドバンスド」→「印刷工程」→「出力プレビュー」(ver.9)

領域全体をカバーにチェックを入れ
320% と入力すると、インキ総使用量が
320% を超えている箇所の色が変わり
紙面のどこが超えているかわかります



(6) 特色をご利用の場合は、事前に弊社担当までご連絡ください。事前にお申し出がない場合、データ上で特色を設定されていても、弊社にて自動的に CMYK に変換いたします。その場合機器が自動的に処理いたしますので意図した色と、仕上がりが異なる場合がございます、ご了承ください。

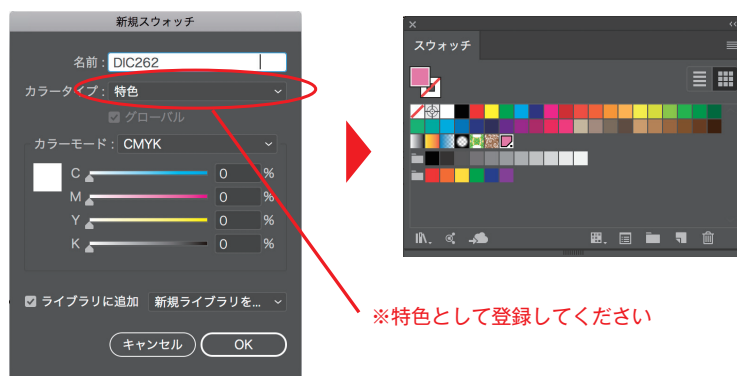
(7) 特色を使用して印刷される場合のデータについて。

(ア) 色数が 4 色以下の場合は、それぞれの特色を CMYK いずれかの色に置き換えてご入稿ください。

※入稿の際に、CMYK それぞれの色が、どの特色になるかご指示ください

(イ) 色数が 5 色以上の場合は、CMYK の他にスウォッチの特色にてご入稿ください。

【例】



※特色として登録してください

特色は、分版プレビューにて確認いただけます

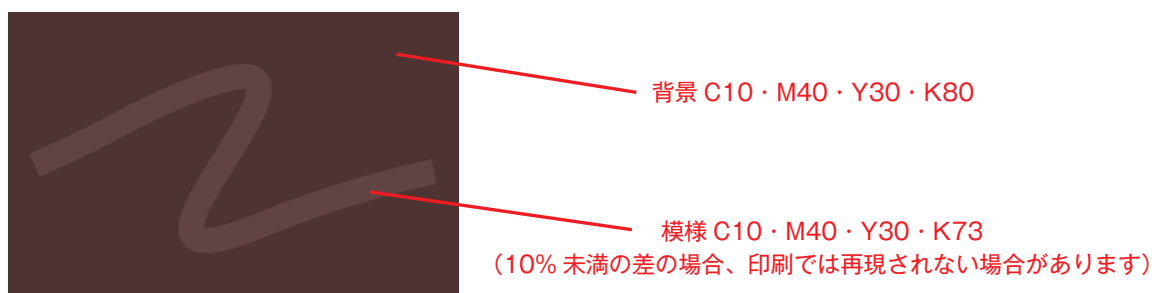


※登録した特色のみを表示して、意図した箇所が特色として制作されているかご確認ください

3. 印刷上の仕様について（予めご確認いただくこと）

1. 4pt 未満の文字、7pt 未満のヌキ文字については印刷時にツブレなどが発生する場合があります
2. 0.3pt 未満の罫は印刷時にカスレなどが発生する場合があります
3. 罫線において、線色が無く、塗りだけが設定されているものは、カスレた線として印刷される場合があります
4. 5% 未満の平網は印刷時に再現されない場合があります
5. 複数の網や線などにおいて、インキ量の差が 10% 未満の場合、印刷時に再現されない場合があります

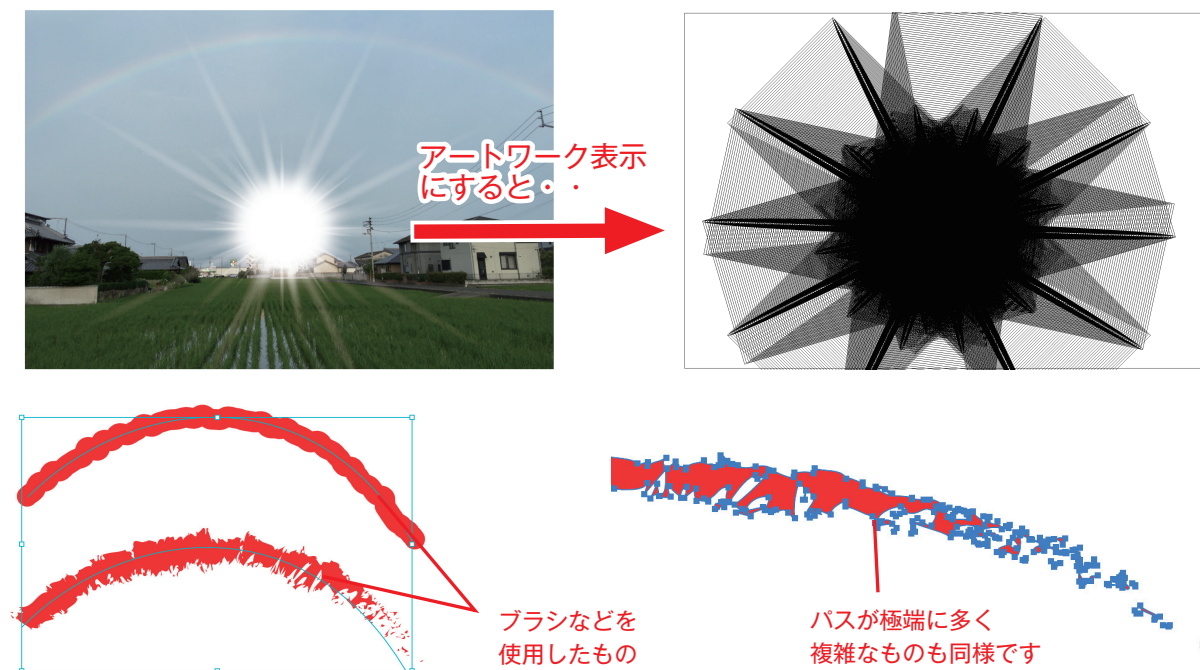
【例】 画面上では差が見えますが、印刷時に再現されない例



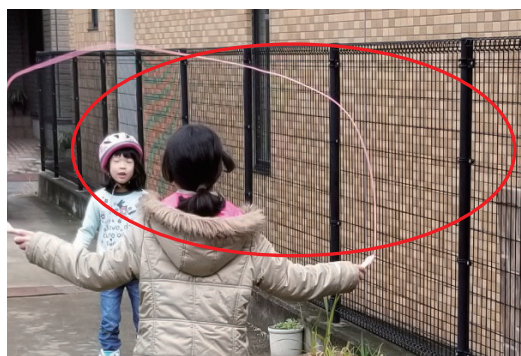
6. PDFx1a など、データによっては透明効果が保持されないのので、不具合が発生する場合があります。
透明効果をご使用の場合はラスターサイズなどで画像に変換する、または PDFX4 形式での入稿をお願いします。
7. 画像を使用した紙面について。
画像は貼付したサイズで解像度 350dpi 程度を推奨いたします。解像度が低い場合は、画像が粗くなり、逆に解像度が高い場合はデータサイズが大きくなります。
データサイズが大きく、印刷が進められない場合には修正をお願いすることがあります。
8. 複雑なパスやブラシなどの効果、透明などを複雑に使用したデータは、エラーとなる場合がありますのでラスターサイズなどで画像にして、ご入稿ください。
エラーが出る場合は修正をお願いすることがありますのでご協力お願いいたします。

① 複雑なパス ② ブラシなどの効果 ③ 透明や乗算、グラデーションとの組み合わせ
などはエラーになりやすい傾向にあります。複雑なものは画像化してご入稿ください。

【例】 パスが複雑で印刷時にエラーとなった例



9. モアレについて。繰り返し模様を複数重ね合わせる時などに、周期のずれにより見える縞模様のことです。印刷物をスキャンして使用する場合や漫画に使用するトーン、模様のある建物の写真などでモアレが発生することがあります。



フェンスの模様などでモアレが発生している

モアレは日常でもよく目にすることがあり、気にされないお客様もいらっしゃいます。気にされない場合は以下の処理は必要ありません。

モアレの発生が気になる方は、ぼかし処理で軽減されることがあります。一般的に、ぼかしを強くかける程モアレは軽減されますが、素材自体がボケてしまいますのでご注意ください。

モアレの発生が懸念される箇所は、事前にぼかしなどの対策を行ったうえでの入稿をお願いいたします。

10. PDF 形式にてご入稿いただく場合、PDF 上での修正・編集はトラブルの原因となりますのでご遠慮ください。
※ PDF で追加された注釈やコメントなどは正常に印刷されない場合がございますので、注釈やコメントなどは使用しないでください。

チラシなど1枚物の印刷される場合

1. チラシやポスターなど一枚、単体のもの、仕上がり形状について

仕上がりの形状によって、下記の2種類に大別されます。「(1) フチ無しタイプ」では塗り足しが必要です

(1) フチ無しタイプ



名前の通り、フチが
付かないタイプ

仕上がりから、上下左右+3mm に塗り足しを付けてください。



塗り足しが不足している場合は
仕上がった時に、背景や紙の色が
出ることがあります

文字など必要な内容は仕上がりから
内側 3mm に収めてください。
断裁時に切れる恐れがあります。

(2) フチありタイプ



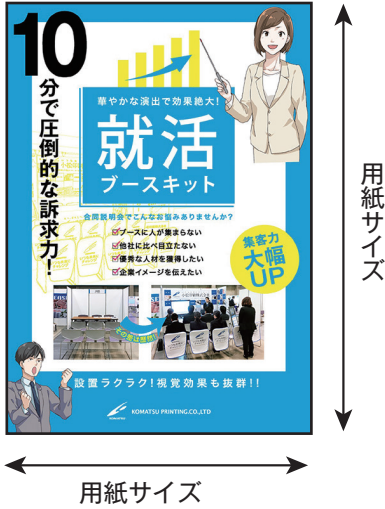
四方に余白が付くタイプ
フチの余白分、サイズが大きくなります



フチありタイプでは、塗り足しは必要ありません

2. サイズについて

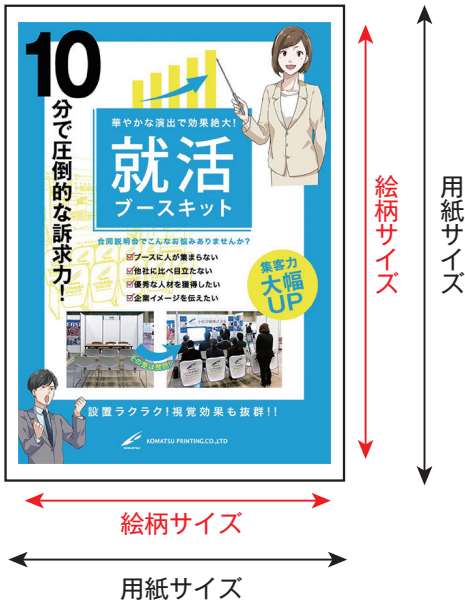
(1) フチ無しタイプ



用紙サイズは一例です。他のサイズでも自由に設定可能です。

A 版用紙サイズ		B 版用紙サイズ		D 版用紙サイズ	
A2	420×594	B2	515×728	D2	525×782
A3	297×420	B3	364×515	D3	386×525
A4	210×297	B4	257×364	D4	257×386
A5	148×210	B5	182×257		
A6	105×148	B6	128×182		

(2) フチありタイプ



一般的な B 判、D 判のサイズです。
他のサイズは弊社担当までご相談ください

B 版			D 版		
	最大絵柄サイズ	用紙サイズ		最大絵柄サイズ	用紙サイズ
B2	530×755	546×765	D2	530×803	546×813
B3	372×530	382×546	D3	396×530	406×546
B4	257×372	270×382	D4	257×396	270×406

※欄外の文字など、印刷するものは全て
最大絵柄サイズ内に収めてください。

3. 特殊な折りがある場合（トンボに折り罫が必要です）



「折り」加工がある場合は、折る位置に
「折り罫」をトンボと共に入れてください。

折り位置は、折り方によって微調整が必要な場合があります。
詳しくは担当までご相談ください

【例】

